

## 小学校 ICT 活用授業 児童のプレゼンカコンテスト

学校 (団体)	フリガナ カガワ		フリガナ グンゲ ショウガッコウ		
	香川	都 道 府 (県)	国 都 道 府 県 (市) 立 区 組 私	郡家	
指導 教員 名	姓		名		担当学年、クラス名
	フリガナ	メイ	ヤスヒロ		
	増井		泰弘		6 年 3・4 組

単元タイトル 江戸時代の新しい文化や時代をつくりあげた人々の活やくを紹介しよう。

単元のねらい

江戸時代の文化をつくりあげた人々の業績を調べ、思いや願いについて考えたことを作品に表現する。

児童のプレゼンカやコミュニケーション力を育成するために工夫した点

6年生4クラス中の2クラス、3組と4組での実践。この学年は、これまでコンピュータを活用しての協働作業や新聞やリーフレット、プレゼンなどを作製するといった経験がなく、インターネットを活用して、何かを調べるといった程度の活用しかできていなかった。何かを相手に伝える、プレゼンをするといった経験も少なく、コミュニケーション力も高いとはいえない。しかし、今回の実践を子どもたちに持ちかけたとき、やろうとする意欲、熱意を感じることができた。今まで経験してきていなかったことへのチャレンジの気持ちを引き出すことができたという点が、実践の一番の工夫である。

ICT 活用とその工夫した点

ピッケのつくるプレゼンテーションは、子どもたちにとって初めて扱うソフトである。また、コンピュータ室のPCがデスクトップ機からタブレットPCになって初めて使用するという状況で、教師も子どもたちもどう使っているかわからない、手探りの状態で実践は始まった。事前に1時間程度、操作スキルを高めるために、ソフトを自由に扱う時間を設定し、操作の習熟を図った。スライドの制作に当たっては、よく工夫された点や教師も十分に知らないような操作は随時紹介し、スライドを協働で制作し、教え合い、学び合うなかで作業を進めていった。

ICT 環境 (PC, ネットワーク、コンテンツ、周辺機器)

Win8 タブレット PC

教科単元 (複数化)	社会科	対象 学年	6年	総時間	8時間
---------------	-----	----------	----	-----	-----

単元計画（単元の流れと実践の内容を記入してください。）		
導入 授業時間 ( 1 )	学習内容 江戸のまちの様子や人々のくらしを描いた絵図を見て、気づいたことを話し合い、江戸の文化や社会の様子について関心を持ち、学習問題「このころの社会はどんな様子で、新しい文化や学問をつくりあげた人々は、どんな活躍をしたのでしょうか。」を設定し、単元の見通しを立てる。パフォーマンス課題として、「江戸時代の新しい文化や時代をつくりあげた人々の活やくを紹介するスライドをつくり、プレゼンする。」を設定した。	
	使用した ICT 機材 電子黒板 デジタル教科書	活用のねらい・工夫 これまで、学習のまとめとして、ミニ新聞づくりを継続して行ってきた。しかし、それは、最初から調べてという課題ではなく、授業後のまとめであり、且つ、個人作業であった。「今までの学習とは違う、協働作業で、ICT 機器としてタブレット PC を使う、スライドをつくる、プレゼンを行うと、今まで経験したことのない取り組みをするよ。」と子どもたちに伝えたのだが、新たな挑戦をするということが子どもたちのやる気を引き出し、単元を通しての学習の意欲化をはかることにつながった。
	展開 授業時間 ( 2 ~ 7 ) ※複数ある場合は自由に付け足してご利用下さい	学習内容 2 時間目は、中心となる人物を決め、教科書や資料集、その他資料を用いての調べ学習を進めた。3 時間目は、調べをもとにグループで協議し、スライドのレイアウトづくりを進めた。同時に、発表原稿の作成も行った。4 時間目～7 時間目を使って、実際のスライドづくりをコンピュータ室で行った。スライドが完成したグループは、発表の練習やスライドのさらなるブラッシュアップの作業を行った。
	使用した ICT 機材 タブレット PC	活用のねらい・工夫 コンピュータ室に行く前に、何を相手に伝えたいのかというプレゼンの原点に立ち返り、スライドの絵コンテや発表原稿の見直し作業に取り組みさせた。この作業に十分時間をかけることで、コンピュータ室でのスライド制作がスムーズに進むことにつながった。なお、スライド作成に関わるイラストや写真等の素材は、教科書や資料集からとし、教師が事前に準備しておいた。そして、共有フォルダに保存しておき、児童が自由に使えるようにしておいた。
まとめ ・ ふりかえり 授業時間 ( 8 )	学習内容 発表会である。各クラス、グループごとにプレゼンを行った。（発表会の様子は添付の写真を参考）	
	使用した ICT 機材 タブレット PC プロジェクター	活用のねらい・工夫 コンピュータ室で、タブレット PC をプロジェクターにつなぎ、スクリーンに投影してプレゼンを行った。タブレット PC を使うことで、スライドの切り替えなどスムーズに行うことができた。実際の発表は、練習不足ということもあり、声の大きさやしゃべり方など課題も多く、今後の課題である。ただ、コンピュータを使って発表することに対する児童の評価は高かった。